

平成25年度 自己評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
校長氏名	府中 恵理
作成日	平成 26 年 2 月 21日

1 教育目標

<p>強いからだと豊かな心を養い、最後までよく考え、意欲的に生きる子どもの育成 育てたい子ども像 ～おもいやりのある子 かんがえる子 さきに行動する子 きたえる子～</p>

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 児童・教職員・保護者が教育目標の具現化に向けた取組を行う。 保護者や地域との信頼関係を深めるとともに、地域の関係団体等とも連携を図り、児童の健全育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育を柱に、教育活動全体を通じて、「豊かな心をもち、よりよく生きようとする子ども」を育成する。 人権教育・道徳教育を推進する中で、一人一人の良さに気づき、他人に対する寛容と温かい思いやりのある心を育み、人権意識の高揚をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」「楽しい授業」を目指し、児童一人一人を大切にしたい授業を行う。 「書く力」について研修し、思考力・表現力を伸ばす。 授業や「学習タイム」で基礎基本の確実な定着を図る。
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 児童と教職員が教育活動全体を通じて目標の具現化に取り組む。(挨拶・縦割り掃除等) 学校からの広報誌や学校行事の参観等で学校教育目標や教育活動等を保護者や地域へ広く知らせる。 児童の様子等について、保護者から相談しやすい環境づくりに努め、家庭との連携を密にして児童の健全育成をする。 地域の関係団体等とも連携を図り、児童が安全に登校でき、学びやすい環境(通学路や災害時の安全を含む)をつくるために取り組む。 児童の学年や発達の段階に応じ、地域の方々との交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳と他の教科等の時間と連携させた総合単元を組み、教育活動全体を通じた道徳教育を意図的に行う。 道徳の時間の話し合い活動・発問の工夫・授業展開(特に自己の生き方について考えを深めることの視点を持つ)等の研究を行い、その充実を図る。 様々な教育課題を解決するための取組をすすめる、一人一人の子どもの個性を生かし、その可能性を最大限に発揮できるよう、日々の教育活動をととして子どもの実態を十分に把握し、必要な手立てを講ずる。 心を豊かにする体験活動(縦割り活動・加太合宿・交流活動等)の内容の精選を行い、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究を深め、十分な準備のもと、授業を充実させる。 思考力・表現力を向上させ活用力をつけるため、考えを書く力や人前で話す力を伸ばすことを大切にする。 支援員(市特別支援教育支援員・和歌山大学生)を活用し、基礎的な知識・基本的な考え方の定着を図る。 「学習タイム」の内容を充実させ、計算ドリルや漢字学習、読み聞かせ、読書の時間として、国語・算数の力をつける。 一人一人に合ったペースで着実に学力をつけさせ、自己肯定感を育む。
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> 「おかざき」の教育目標を学校だより、学校ホームページや地域や保護者向けの講話で意識的に知らせた。 学校のホームページを頻りに更新することで、学校の教育目標や活動内容、児童の様子を保護者だけでなく広く地域にも知らせた。 児童のトラブルやけが等への迅速な対応に努めるとともに、保護者から相談しやすい関係を築けるよう、様々な機会に呼びかけたことで、気軽に相談を受けることが多かった。 前年に比べアンケートの「子どもが相談しやすい学校」と「学校は教育活動や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」の項目が数ポイント高くなった。 地域の関係団体と連携して児童の学年や発達の段階に応じ、地域の方々との交流をすることにより児童にとって様々な良い体験ができ、交流も深まった。 通学路等の危険箇所や災害避難等については、地域の関係機関と連携して、安全な環境づくりのために対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会の研究指定を受けて研究を行い、教科等別研修会で低・中・高学年の3研究授業を行い、良い評価を受けた。 児童の実態を把握した総合単元を組み、教育活動全体で道徳の力を育む工夫をしたが、他の教科等における関連性を常に意識した学習の取組が十分でなかった。 研究の核である「道徳の時間」について、畿央大学島教授に発達の段階に応じた目標の設定や発問の工夫等について指導を受けることで授業の充実を図った。 いじめに対する早期発見・早期対応するため、毎月のアンケートで児童の生活や心の変化をつかむとともに、事案発生時には迅速に対応し、取組を進めてきた。 縦割り掃除等で教師が積極的に言葉をかけ一緒に活動することで、特に、高学年が主体的に活動できるよう支援したが、労働や奉仕に関しては少し課題が残った。 ときわクラブとの交流会や社会見学、森林体験学習をはじめ、PTA土曜センター事業の行事における地域の方々との交流をととして、心を豊かにする体験活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導の充実のため、引き続き教材研究を深め、授業に取り組んだ。 市特別支援教育支援員が支援の必要な学級に入り、生活や学習で児童の支援を行った。 和歌山大学生ボランティア2人を迎え、基礎的な知識・基本的な考え方の定着を図るため、児童にタイムリーに支援した(1年生を中心に4～6年生)。 帰りの会の前に「学習タイム」でも計算や漢字、作文や視写、読書等に学年やクラスで取り組んだが、毎日、確実に時間を保証できなかった。また、系統だった取組にできていない。 全国学力・学習状況調査では、3年間連続で少しずつポイントが減少傾向にある。国語の表現力・活用力を問う問題には課題がある。また、県学習状況調査でも、県平均レベルで高い方ではない。 書く力をつけるため、学期初めの会議で書かせ方の実践を持ち寄り研修した。授業で書く機会を増やすなど、工夫を重ねてきた。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学校便りだけでなく、学校ホームページも充実させることで保護者だけでなく地域へも広く学校の活動や子どもの様子を知らせる。 地域の方々との連携を一層深め、児童が地域の方々ともより交流できる行事等を計画していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も和歌山市教育委員会の研究指定を受け、道徳教育の研究に取り組むことで、子どもの心を育てていく。 いじめのない学校づくり、仲間意識を高めるために、総合単元的な道徳学習の取組を充実させるとともに、人権意識を高めるための取組も一層充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教科における教材研究をさらに深めて充実した授業を行うとともに、支援員を活用した児童の学力向上を図る。 思考力や表現力・基礎的な知識の活用力を向上させるため、書く活動についてさらに研修を深めるとともに、考えを書く力や人前で話す力を伸ばす。 「学習タイム」の充実を図るため、校時表の組み替えをし、時間確保と内容の充実と系統性を持たせていく。

3 その他の課題

<p>児童の命を守り、児童が安全・安心に生活を送れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体調不良やけがが多い状況をふまえ、健康管理視点から保護者への働きかけ等をしていく。

- ・火事・地震や津波・不審者に対する避難訓練を充実させる。
 - ・地震や津波についての学習と避難訓練を連携させて充実を図る。
- 体力の低下に伴う課題解決のための方策を考えていく。